

評価指標について

改善の方向性>事業進捗（成果指標）の把握とあわせて、利用者満足度（効果指標）の把握を行い、更なるバリアフリー化の推進に取り組む

現状

評価指標

整備率 = (完了事業 + 継続事業) ÷ 計画数

事業者目線での評価（定量評価）

⇒構想に位置付けた事業がどれだけ進んだか

- ・事業の進捗度（成果）に対する利便性の向上度（効果）を検証し、取り組むべき課題の把握に努める
- ・まちあるきでは把握しきれない各地区の利用者評価・意見を、バリアフリー化推進の参考とする

課題と対応

評価指標の表現修正

○課題

- ・基本構想で位置付けた事業の進捗のみ集計（基本構想策定時点の整備状況は考慮していない）
- ・基本構想の事業完了≠バリアフリー化完了（特定事業完了はすべての課題を解決するものではない）

○対応

⇒評価指標としている数字は「バリアフリー化の現状値」でなく「事業の進捗度」であるため、「整備率」を「進捗率」に変更

利用者目線での評価を追加

○課題

- ・ユーザビリティの観点から利用者の利便性等を捉えた評価がなされていない

○対応

⇒これまでのまちあるきに加え、アンケート調査等によりバリアフリー化の状況について満足度調査を行う
（専門部会委員の各所属団体にご協力をいただき、重点整備地区それぞれの利用者評価をアンケート形式で実施）

改定（案）

評価指標①

進捗率 = (完了事業 + 継続事業) ÷ 計画数

評価指標②

利用者満足度 = バリアフリー化の満足度（アンケート調査等）

事業者目線での評価（定量評価）

⇒構想に位置付けた事業がどれだけ進んだか

+

利用者目線での評価（定性評価）

⇒事業が進んだことでどれだけ利用しやすくなったか

定量評価の算出方法について

改善の方向性>事業進捗の把握がしやすくなるよう、集計・表現方法を改善

現状

ハード・ソフト事業の評価算出

整備率 = ハード事業 + ソフト事業

道路特定事業の整備率

整備率 = (完了事業 + 継続事業) ÷ 計画数

- ・対象路線について全範囲が整備された場合に「完了」としている
- ・道路延長での整備率も算出しているが、各事業項目（誘導ブロックの設置、勾配・段差の解消等）を合算した総合評価で算出

各重点整備地区の評価

- ・6地区について横並びで比較評価（既存（H16～）、新規（H25～）の区別なし）

課題と対応

ハード・ソフト事業の評価分離

○課題

- ・ハード事業とソフト事業を一括して評価しているため、完了した事業と継続実施している事業の把握が困難

○対応

⇒ハード事業（完了）とソフト事業（継続）を分けて、それぞれで進捗率を算出する

事業種ごとに評価方法を区別して進捗率を算出

○課題

- ・道路特定事業は、対象路線すべてで事業完了するまでに相当の時間を要するため、進捗状況が把握しにくい
- ・事業項目を合算した整備率では、進捗が把握しにくい

○対応

⇒道路は道路延長での評価を基本とし、事業項目ごとに進捗を評価（全事業項目を統合した総合評価の進捗率は算出しない）

地区間の比較でなく各地区の現状把握を行う

○課題

- ・既存地区と新規地区は特定事業に取り組んだ事業期間が異なり、特性も異なるため横並びの比較は出来ない（比較意義は小さい）

○対応

⇒地区比較でなく、地区ごとにまとめ現状と課題を分析する

改定（案）

ハード・ソフト事業の評価算出

- ①進捗率（ハード事業）
- ②進捗率（ソフト事業）

道路特定事業の進捗率

進捗率 = 整備済み延長 ÷ 事業延長（※）
（※）：事業項目ごとに進捗を計算

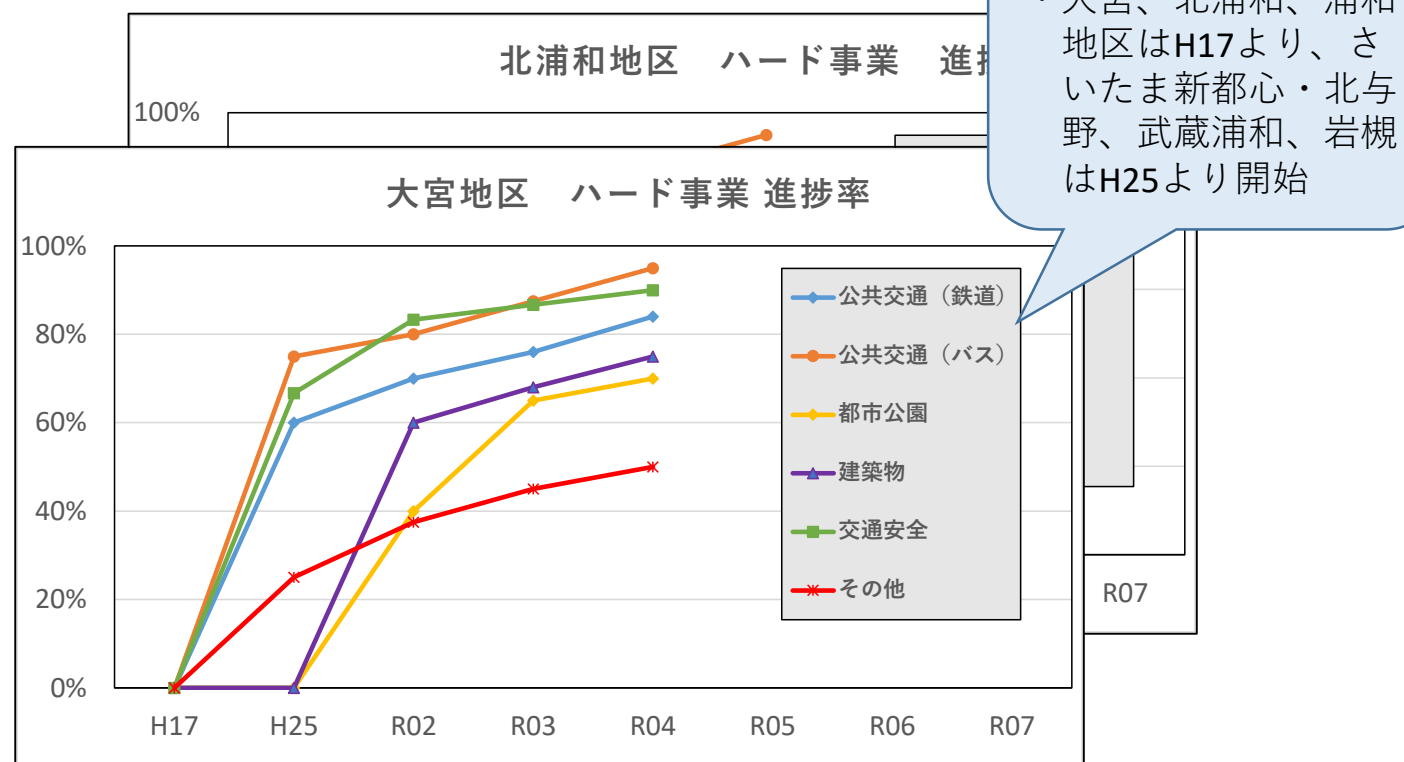
各重点整備地区の評価

- ・地区ごとに現状把握がしやすくなるよう集計（※集計のとりまとめイメージは次頁に記載）

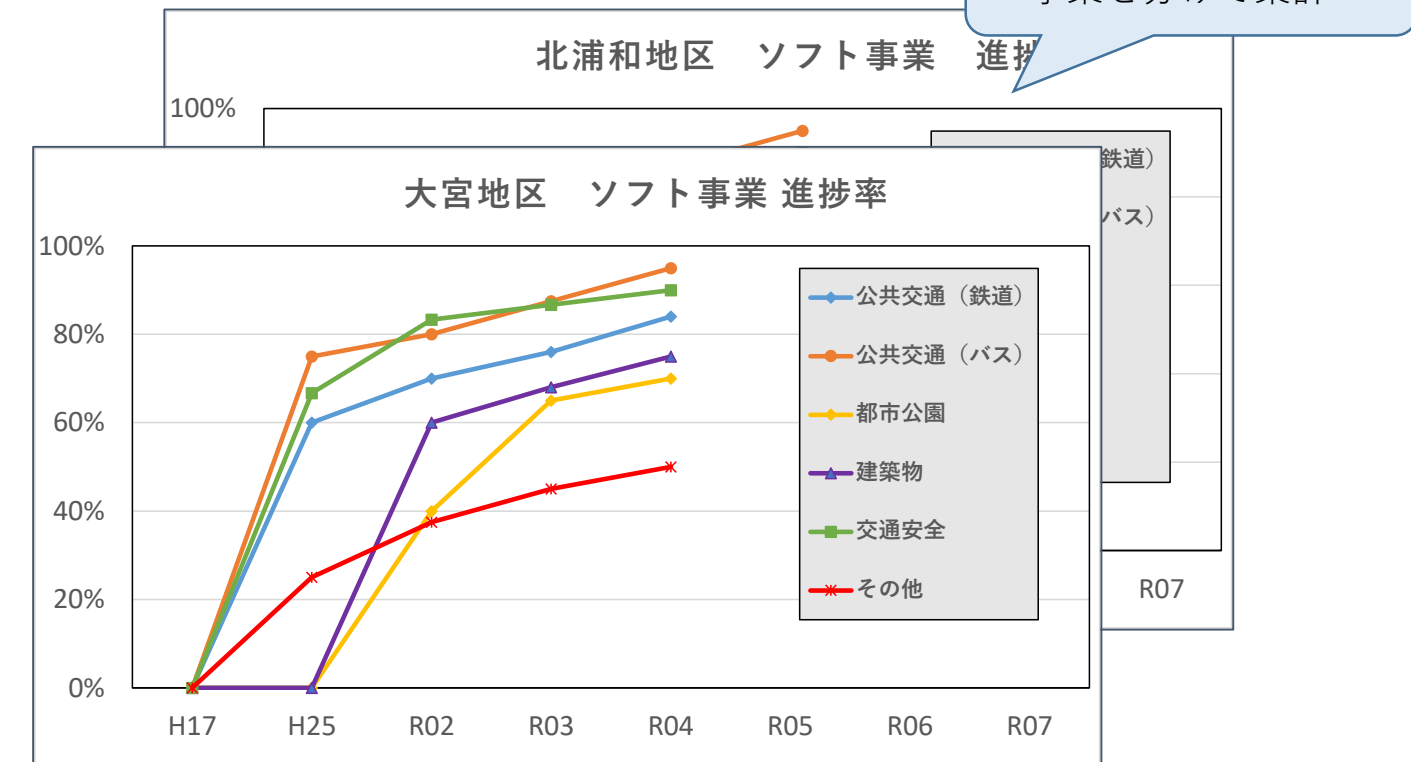
評価指標のアウトプットイメージ

- 地区ごとに集計
- 事業進捗率を「ハード事業（道路以外）」、「道路特定事業」、「ソフト事業」に分けて集計 + アンケート結果を「利用者満足度」として集計

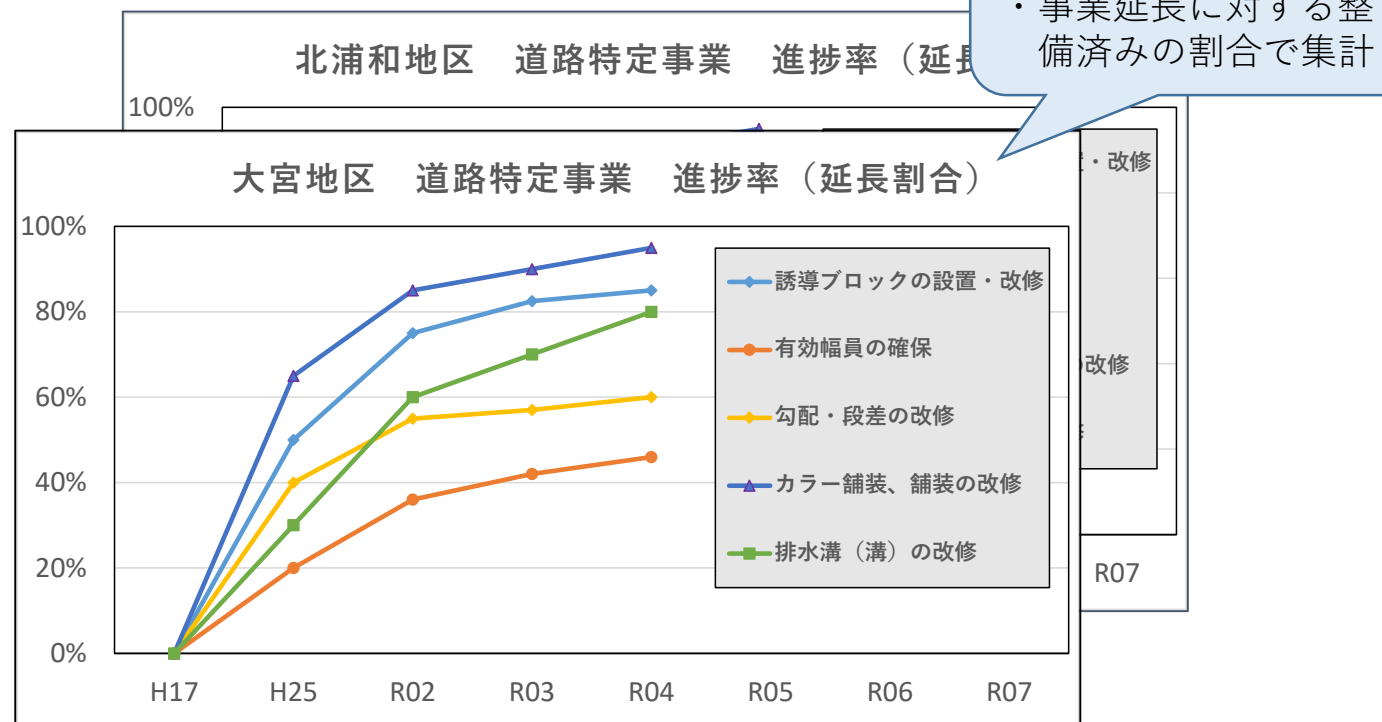
事業進捗率（ハード事業）



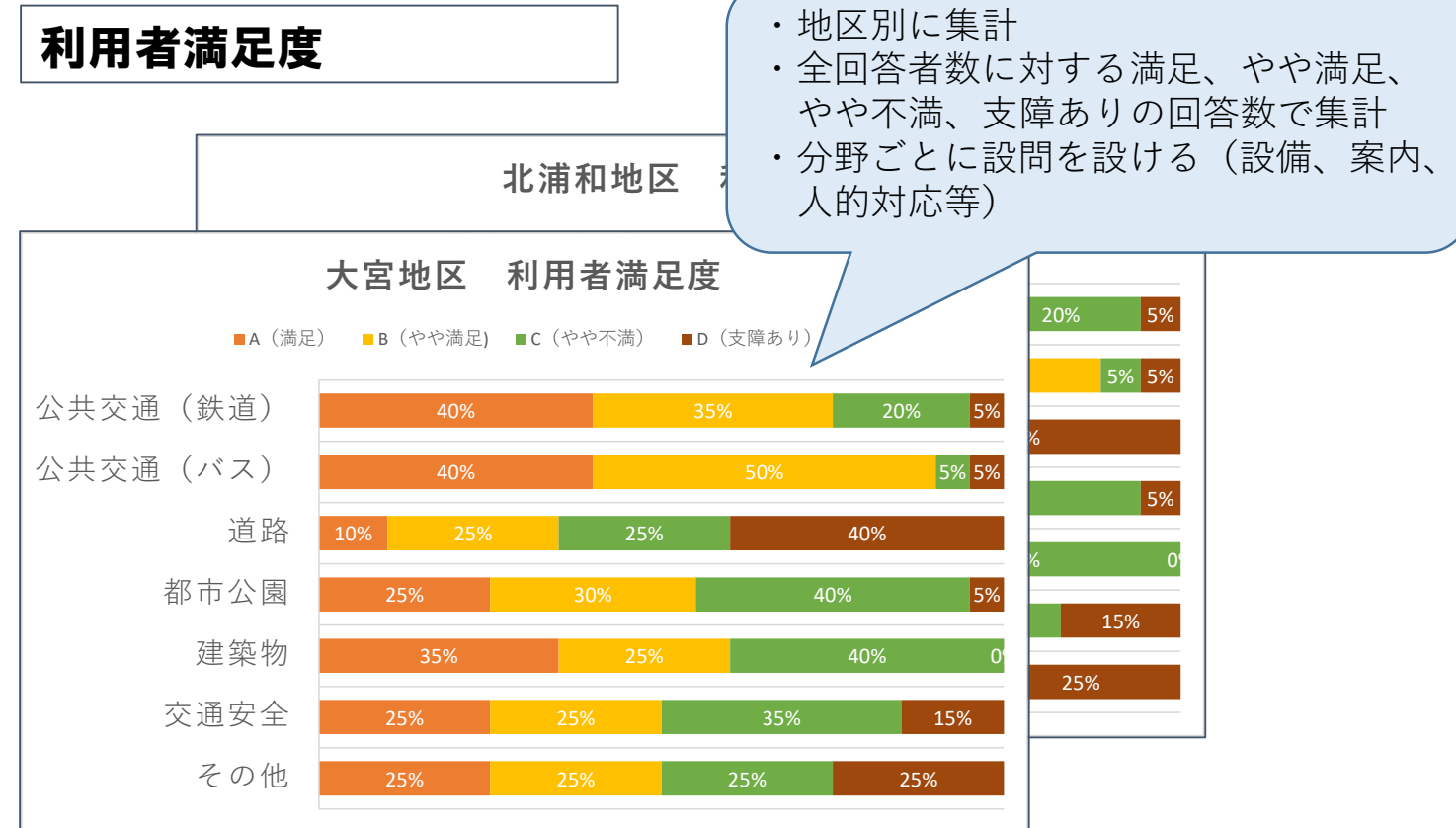
事業進捗率（ソフト事業）



道路特定事業進捗率（延長割合）



利用者満足度



※表示されているグラフはイメージです。実際の集計結果とは異なります。